

図書版だより

監 字 田部島根県知事

号 数 第 12 号
発行日 昭和 46 年 3 月 15 日
編 集 楫 野 健 治
発 行 島 根 県 立 図 書 館
松 江 市 内 中 原 町 52
TEL (0852) 22-5725
印 刷 ㈲ 高 浜 印 刷 所



提供 川本 貢功氏

読書と公民館

人間社会の発達には正に文字の発明によってもたらされたと言っても過言ではないでしょう。今日では文字以外に我々の五感を通じるあらゆる方法が確立され、居ながらにして各種の情報が我々の周囲にはんらんしております。情報化時代などと言われていますが、ややもすればこのはんらんする情報の波におし流され全く自主性のない浮草の如き集団社会が生まれつつあるのではないのでしょうか。

こんな時こそ読書の重要性が認識され読書運動が盛り上がってこなければなりません。最近特に市町村に於ける公民館が社会教育の拠点として強化されつつあります。この公民館施設の強化に是非組み込まなければならぬのが読書運動のよりどころとしての図書室であります。そしてこの図書室が公民館人によって効率的に運営される時、図書人口は倍加されて行くでしょう。

しかしこの公民館図書室の運営には幾多の困難な問題が内在しております。中でも蔵書の確保と読書人口をどうして強化して行くかであります。このことは一朝一夕に解決出来る問題ではありませんが、一歩一歩たゆまず努力して行かねばなりません。県立図書館の移動文庫等との協力も重要なことです。そしてこの公民館図書室の強化こそ将来の市町村立図書館設置の出発点だと確信します。

図書館協議会委員 石 倉 千 代 司

図書が配架されるまで

当館における図書の選定、整理から 利用にいたるまでの業務について

島根県立図書館奉仕課

公共図書館は、情報化社会に即応する機能と役割を果たすうえからも、生涯教育における読書の重要性からもその存在意義は高く評価されてきているところであるが、その中核となるものは何といても資料である。その資料を充実するにあたってどのように選択し、収集整備していくかはおのおのの図書館運営の基本方針にもつながる重要な問題である。

新しい時代の要請に対処し、県民が求めている資料は何かを究明し、その信頼と期待に応え名実ともに社会教育施設としての図書館運営をしていくためには、出版洪水といわれている現今適正な選択をおこなううえにおいて幾多の困難な点もあるが、当館では県立図書館をしていわば島根県における中央資料館にふさわしい資料を整備するというを第一要件として選定をおこなっている。その概要を列記してみるとつぎのとおりである。(ここでは紙面の都合上館内用図書についてのみ記すことにする)

1. 図書購入予算について

旧館時代は、いろいろの事情により十分な予算がなく、したがって図書館に備えるべき資料も十分なく、また県民の要求に対しても応えることができなかったが、新築した昭和43年度には一般図書購入費のほかに、緊急図書整備費として1千万円の購入費が認められ、さらに同年度を第一次年度として図書整備10か年計画を策定し、昭和52年度には20万冊の蔵書を目標として年間1万冊(館内、外図書合計冊数)購入を目途に逐年整備をおこなっている。昭和46年1月末日現在総蔵書数は13万5千冊内館内用図書10万3千冊で3万冊が一般閲覧室、参考室、郷土産業資料室、小中学生室等へ配架利用に供している。

昭和45年度は館内用図書購入費 440万円が予算化され、この予算に基づき年度当初には総合的図書購入計画をたてるのであるが、これは分類別蔵書構成、来館者の利用傾向、出版点数、図書価格、利用者の要望等を参考にして分類別配分額を決定し、館内で組織化された選定委員会が協議決定する。本年度は参考基本図書、郷土資料、小中学生用図書の整備充実を目標に、重点的に配分した。

なお昭和46年度当初予算において、館内用図書購入費480万円のほかに、特別図書購入費 100万円(高価貴重図書、稀親本、郷土資料、古文書等)が認められたので、さらに充実整備をすすめることができると期待している。

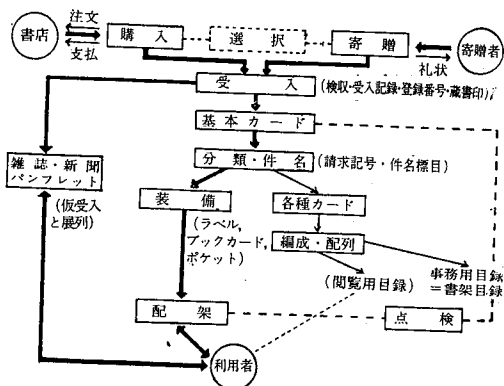
2. 図書の選定について

予算の配分をうけた各分類別担当者(奉仕課内専門職

員)は、図書の選定にあたってまず日本図書館協会発行の選定速報、読書人、出版ニュース、書評等各種の出版資料を参考にし、あるいは直接書店に向いて現物を見計らい、購入リストを作成して奉仕課内で慎重に検討審議しさらに前述したように定例の図書選定委員会にはかり決定している。

3. 整理事務の流れについて

図書館資料の整理ということは、受け入れられたあらゆる資料の保管管理の万全を期すためと、いまひとつは利用者が必要に応じてそれらの資料をいつでも自由に利用し得る状態にしておくことである。そのためには受入業務、分類作業、目録作業、資料の装備配架、各種目録の編成、索引業務書庫管理、製本修理、統計等の問題があるが、この整理は図書の選定とともに図書館における資料保存の極めて重要な基本的業務であり、このような整理方法の良否は、図書館機能を左右するものであるといわれるほどに重要視されているものである。ここでは常に正確に且つ迅速に事務処理し、統一された整理基準にしたがって整理し一日も早く配架し利用に供するよう努めているのである。



整理作業の流れ図

5. むすび

以上図書の選択から利用までの概要について記したが、要するに図書館は多くの資料が整理し保存され、いつでも誰でも利用し易いようになっているということが、基本におこなわれているということであろう。そして将来益々情報量の増大と多様化にともなって、個人では到底保存整理しきれないものが、図書館では情報提供されるということにもなるであろうし、また一方ではこれらの蓄積された図書館資料を中心としてレファレンス、サ

ービス（参考相談事務）もおこなわれているということである。

公共図書館が、地域社会での情報提供センターとして県民の期待と信頼を得るために、我々はその選択にあたって与えられた予算を効率的に運用し社会生活の動きと

県民の要求とをたえず洞察して、適正な図書の選定をおこなうことはいうまでもないことであるが、一方こうした資料が益々さかんに利用されいついかなる要求にも応じられるという提供と利用の関係が将来いよいよ拡大していくことを願うものである。

公共図書館の広場

農村モデル大東町立図書館

概況

山間辺地にも都市並みの文化教養施設を町内に住む青年の要望が突って、昭和41年総工費 1,050万円（内国庫補助金 380万円）で建築されたのが、中国地方ただ1か所の農村モデル大東町立図書館である。

建物は、役場・中学校・体育文化センターに隣接しており、利用者の便もよく、教育的環境にある。構造は、鉄骨一部2階建て、延 383㎡の面積をもち、1階に閲覧室、研究室、談話室、書庫、事務室を設け、2階には、視聴覚室、郷土資料室、館長室がある。

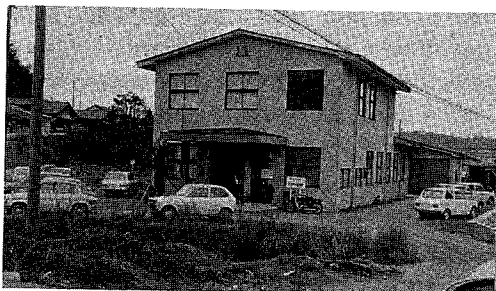
利用の状況

開館当時は、1日平均19人程度であった利用者も、年々わずかながらも増加し、今年は40人を越すようになった。

利用者の70%は、学生であるために、午後2時ごろからは、午前中とうって変って混雑する。また夏休みの期間は、大学生や高校生の研究の場として、視聴覚室や館長室を開放している。

一方、成人者の利用は、ほぼ固定しておりこれを高めるために、県図書館協議会の展示品をはじめ、写真展、盆栽展、手芸展、映画観賞会などを開いて、関係図書の展示、貸し出しを行なっている。

また、毎月発行される町広報紙に「新刊紹介」を掲載したり、利用者の座談会を開いて意見を聞くなど「町民の図書館」になるよう心がけている。



蔵書

苦しい町財政の中から、年約 1,000冊の増書をはかっているものの思うにまかせない現状であり、県立図書館から特別の貸し出しをうけて、利用者の要望にこたえている。

近年、図書館に対する理解が深まってか、町内出身者

から数多くの寄贈図書をうけている。特に本年は、前町長高橋英夫氏から10万円の寄附をうけ、伝記を主体にした図書 220冊を備えることができた。

配本所

開館の当時は、図書館車に図書を積んで巡回貸し出しをしていたが、要望（時間的な制約）によって辺地の地区公民館や商店、一般民家など、住民の出入りが多い場所32か所を選んで配本所を設置し、毎月1回、30冊宛の図書を配本している。

配本にあたっては、配本図書一覧表の配布や、有線放送で広報するなど、利用者の便をはかったためか、利用者が年々のびつつあることはよろこばしい。

サービスの交換

昨年の5月、小・中学生10名を町内の書店へ招いて、1人 1,000円以内で自分の読みたい図書を購入させた。小説を2冊買う中学生、1冊の図鑑を買ってくる小学生など、長時間かかって、すばらしい図書を購入してくれた。昼食をともにしながら意見を聞く。「児童閲覧室を設けてほしい」「貸し出しカードの記録は簡素化できないか」など担当者が気のつかなかった改善点を聞くことができた。午後は図書の整理、点検作業を手伝ってもらった。

この生徒たちは、それ以来ときどき乱雑する図書の整理を、すすんでやってくれている。

わずか1日の行事ではあったが、図書館の仕事を理解し、自分たちの図書館としての意識を深めたことは喜ばしく、本年もこの行事を実施したいと考えている。

今後の課題

○読書会の育成強化

町内には2つのグループがあるが、ただ毎月配本するのみに終わっている。指導体制を強化し、多くのグループ育成と指導助言をしたい。

○施設・設備の充実

増書をはかることはもとより、ステレオなどの設備の充実や、環境の整備など、文化センターとしての努力をしたい。

○開館時間の延長

本町は、町外への勤務者が多く「時間的に図書館が利用できない」との意見があり、7月～9月中にでも開館時間を延長し、利用者の便をはかるよう検討している。

私達の読書グループ

津和野、憲法を学ぶ会

この会が出来たのは1966年10月ですから、もう4年余りになります。始めは当地の日本キリスト教団津和野教会の主催で、田畑忍先生の憲法講演の「テープをきく会」を公民館でした時、10名ばかりの人が集りましたが、その講演が私共の心に問題意識を投じたのでした。そして何か私共も憲法に無関心でありえない気持ちになり、座談会るとき誰云うとなく一語に勉強しようではないかと云うことになり、月1回公民館の図書室で始めたのですが、メンバーは7名でした。それから52回の例会をしております。初めの頃は憲法そのものの勉強を主にしておりましたが幸いなことにメンバーの一人である桑原政治氏（現当町助役）が、かねてより大変よく勉強しておられ、毎回丁寧な註解的な話をして下さいました。メンバーは公務員、鉄道職員、教員、僧侶、牧師、会社員等。保守、革新を問わず、お互いに勉強してきたことを話し合うことにしており、夕、七時半から十時までしております。現在メンバーは相変わらず増えもしないが減りもしない状態。多くて十名余り、少い時で三・四名。平均五・六名というところ。時々特別集會をします。田畑忍氏を招いたり、安保に就いて各党にきく集り、また島大の武井正臣先生から「憲法と家族問題」についてお話を伺ったり、仁保事件の林健二牧師を招いたりしました。そのうち憲法学習から憲法に関係のある社会問題の理解が急務になり、平和、生活権、民主主義、人権天皇制、教育、宗教、学生運動、安保、言論の自由、差別、公害等々、次々起ってくる問題に就いて、お互いに交代で勉強してきて、発表し、討議してきました。時には学び、評論するばかりでは駄目ではないかと考えましたが、個人的にそれぞれ活動しておりますので会としてはどこまでも「学ぶ」という立場で通そうと云うことになっております。現在この会の悩みは保守の人が来なくなり対話が出来ないことと、若い人が少ないことです。平均年齢40才位で、今後の運営に苦慮しています。毎年成人式には「日本国憲法」のパンフレットを贈っております。

この間の例会の時、「私たちはどうしてこの会に出てくるのだろうか」と話し合ったのですが、それぞれ云うことは一致していました。「社会に眼が開かれ、自分にとって大変勉強になるから」ということでした。

矢島生

レファレンスコーナー

(問)「サリンジャーの作品傾向について簡単にお知らせ下さい」

(答) おなじみ『ライ麦畑のキャッチャー』の作家です。1919年生まれユダヤ系アメリカ人の彼は、隠遁に近い作家生活を続けながら、ユダヤ人という民族意識を鋭く追求しています。「グラス家年代記」—ユダヤ系アメリカ人家庭を中心とする作品—と呼ばれる一連の一族物語を書き、『大工たちよ、屋根の梁を高く上げよ』『シーモア序論』『フラニーとゾーイ』がその代表作です。特に青年と成人との境界線を精神上、経済上あらゆる面より複雑極まる心理状態を描写し、青春につきまとう不安、孤独感に成人となっても変らないことを説いております。彼の描く恋愛は破壊が多く、兄妹の血縁関係では深いつながりが暗黙の内に強調されます。詳細な情景描写を背景に繊細な精神の青年が、あるいは感受性の強すぎる少女が登場し、エゴとエゴの葛藤が展開されます。又、禅や仏教の言葉に出会う読者には、彼の作品に強い興味がわくことでしょう

当館所蔵のサリンジャー参考文献

サリンジャー選集第1～4巻。ライ麦畑でつかまえて。サリンジャーの世界。アメリカ文学と禅。

《図書館司書のメモ》

先般、「図書館ハンドブック」をのんびり、読む機会を得た。学校卒業以来、毎日の実務に追われるのをよい事にして、久しく開くことのなかった図書館学の教科書である。学生時代には、空論のように思えてピンとこなかったことに、現場にいて読むとつくづく共感し、また反省もさせられた。

生活者の現実的要求から出発した図書館はあくまでも民衆の手の中にある施設であって何事も利用者優先が基礎である。活字の上においては、奉仕論が何回も述べられ、読む事もあるが、それをどのように、どれだけ実践するかが問題である。現実には毎日小中学生室で子ども達に接して思ふ事は、まづ彼等の中に入って子どもをよく知り、一人一人の個性を伸ばす手助けができたらということである。子どもの中には、植物博士、昆虫博士、鉄道博士など種々の豆博士がいる。ある日、鉄道の好きな男の子と話をしている、「僕は今国鉄に凝っているよ」と言ったから、「将来、国鉄に入って総裁をねらえば!!」と冗談を言ったら「国鉄は赤字だからつまらない」という返答があった。

驚くような言葉を耳にすることも度々あるが、今より更に多くの子ども達に図書館を利用して欲しい。そして、それぞれの個性を生かして、図書が生活に密着するように、又大きくなっても図書から遠ざかることのないようにと願っている。

久保田 順子

図書館資料紹介

◎ 図 書

「憲法を読む」 小林直樹著 岩波書店 150円
 学校生活を終えて社会に入られる方に読んでいただきたい本は、人生論、処世術の本、文学書など沢山ありますが、未来の日本を築いて行かねばならない皆様には、是非、国民の在り方を定めた日本国憲法を知っていただきたく思いこの本を紹介しします。

日本国憲法はご存知のように第二次世界大戦後の昭和22年5月3日に出来たものですが、かつての明治憲法と異なり、平和と民主主義に徹した画期的なものです。一つ一つの条文には、過去の人類の長い苦しい体験からにじみ出た深い意味が刻みこまれています。無謀な戦争の絶対的拒否、人間の権利を踏みにじるような権力からの自由、国民から遠い所で国政が行なわれることのないように参政への道が開かれていることなど私たちにあって本当に大切なことばかりです。しかし現実の政治は複雑で、憲法が定めているとおりにはなかなかうまくいっていません。なぜでしょうか。著者はその根本原因を実例をあげながら追求するとともに、われわれが今後どのような心構えで政治や生活について考えて行くべきかを教示しています。

現代は核時代、情報時代などと言われています。歯車の回転が一つ間違えば大変恐ろしいことにもなりかねない時代とも言えます。憲法がこの危険から守ってくれる役割を持っていることは確かなようです。豊田

「読書の伴侶」 久山康等著 創元社 520円
 読書の手引書として、所謂古典と呼ばれるものを紹介し、哲学から保健にいたるまでの広範囲にわたり、寿岳文章をはじめ十名の作家、評論家による読書経験を対談形式でまとめたものです。文学傾向の人には哲学へ、自然科学方面の人は社会科学方面へと目を向けさせられるでしょう。多読、乱読の人には、是非ここで一步踏み止って自己の読破した本を反省してほしい。そうすればさらに身のあるものを読もうとする意欲が浮かんでくるでしょう。今まで自分の心に残った本が、果たして何冊あるでしょうか。「読書の伴侶」ではなく、一生の「人生の伴侶」としての心構えが必要でしょう。人が生活する上でその基盤となる世界観、人生観をこの本を手引きにして見つけてもらえば幸いです。なお初版は昭和27年に出版され、新しく九版が昭和42年に発行されました。 来島

◎ 映画フィルム

16ミリ教育映画

職業への道

カラー 37分

製作意図

最近の勤労青少年は、就職後3年間に50%は離転職

するといわれている。その解決の一助として青少年の生活設計というものを考えてみたい。

若い人達が職場に定着するとき、平坦な道をたどるにせよ、ついには働く生き甲斐をつかんでいる。

この映画では、ものを作る喜びがあって、それが働くということ、生きるということの手ごたえとなっており、こうした生き甲斐なくしては働く者の健全な生活設計はあり得ないということを強調しようとしたものである。



あらすじ

田島安夫は16才、硝子工場に勤めてそろそろ1年になる。昼間働き、夜は夜間高校に通う彼には思いやりのある先輩吉田がいる。

安夫がこの頃疑問に思うのは、ただガラス玉を吹くだけの単調な今の仕事に夜学の勉強がどう役にたつのかということだった。

そんな気持ちで、安夫は中学時代の同窓で、美容師をめざして働いている澄子を訪ね、自分もがんばらなくてはという気持ちになる。

ある日、「会社は慈善事業をしているのではない」という社長の実利主義、従業員への冷たいことをふと立ち聞いた安夫は会社を飛び出し、ある陶器店に住み込むが、うまくいかず悩んでいた。

そんなある日、安夫は過ぎて花びんを割ってしまい泣きたい気持ちのところへ、先輩の吉田がひょっこり訪ねてきた。

安夫は懐しきのあまり吉田の胸に泣き伏してしまう。吉田の口添えもあって社長は安夫の復職を快く認めてくれた。安夫は決意に燃えた眼差で応える。数年後には立派なガラス技術者が生まれることだろう。

利用のおすすすめ

職業とは何か？ 労働は背負って生きなければならぬ業であってはならない。生きる喜び、職業とは、それにつながるものでありたい。

これから学窓を巣立ち、社会人として第一歩を迎えようとする諸君に、ぜひ見ていただきたい映画である。

寄 贈 図 書

ご惠贈ありがとうございます

S45.12~46.2



図 書 館	住 所	氏 名
吹田母子会20年の歩み	大阪府	吹田母子会
須佐神楽		佐田町教育長
詩集 羽たち	浜田市	森 俊雄
島根年刊詩集	簸川郡	高田 正七
前原一誠の東上諫奏について	山口県	脇 英夫
国の予算	東京都	大蔵省主計局
断絶の時代	松江市	中 広昭
平田市誌追録	平田市	平 田 市
土壤肥料相談	松江市	真崎 利行
私説 石見銀山 巻6	東京都	竹下 弘
共同担当論	"	島内 龍起
五十年の歩み	横田市	横田高等学校
松江城の城郭復元と史料	松江市	島田 成矩
鯛三の出べそ歳時記	"	吉岡不二子
いのちの書	東京都	成ヶ沢宏之進
相愛こそ唯一の真理	"	ラウル・フォルロー
ロシア その光と影	"	霞ヶ関出版株式会社
句集 草と霧	大田市	松井 辰郎
私の主張	松江市	青少年育成島根県民会議
玉川 新百科 全10巻	"	図書館友の会
魯迅の印象	大阪府	増田 涉(郷土出身)
日本精神史鈔	東京都	国民文化研究会
海苔の歴史	"	全国海苔問屋協同組合
歴史の研究 14・15巻	"	「歴史の研究」刊行会
近取善本書影	天理市	天理図書館
日本の安全保障	東京都	防衛庁長官々房広報課
グラフ おおさか	大阪市	大 阪 市
伸びゆく大阪'71		
北欧 紀行	益田市	浅井喜多治
鉄師田部家の経営構造	松江市	佐原 甲吉
人口移動と地域課題	東京都	高橋
津和野町史 第1巻	津和野町	津和野町史刊行会
相沢貫一歌集	東京都	相沢貫一歌集刊行会
征西將軍宮千光寺ご陵墓の研究	"	「征西將軍宮千光寺ご陵墓の研究」刊行会
山形県立図書館蔵書目録	山形県	山形県立図書館
いけばな 日本の旅	東京都	宇田川理翁
発表作文集	松江市	日本赤十字社島根県支部
大社町総合年表	大社町	大 社 町
佐賀県のすがた		佐 賀 県
石川一郎追想録	東京都	経済団体連合会

—12月1日から2月末まで—

- 12月1日 1970年主要基本雑誌 100選展(12月中展示)
映写機認定講習会(浜田市、津和野町4日迄)
- 2日 県公共図書館協議会秋季総会〔集会室〕
自動車文庫巡回(那賀コース、4日まで。
〔以下BM〕)
- 7日 松江市理容青年学級20名映画、レコード団体
鑑賞。島大付属幼稚園児 100名見学。
- 8日 BM(広瀬・横田コース、10日まで)。図書選
定委員会(会議室)
出雲市小中学校教諭(図書係)12名見学
- 12日 文化映画を見る会、ステレオコンサート〔集会室〕
- 14日 BM(美鹿コース、18日まで。
本に親しむ婦人教室〔集会室〕)
- 15日 図書館協議会〔むらくも会館〕
- 18日 郷土文学に親しむ会〔集会室〕
- 19日 古文書を読む会〔集会室・会議室〕
BM(湖陵・多伎コース)
- 21日 BM(八東・平田コース)
- 22日 BM(簸川コース)
- 23日 BM(島根半島コース)
- 24日 BM(伯太コース)
- 28日 休館(4日まで)〔仕事納め〕
〔12月中閲覧者総数 9,217名〕
- 46年1月4日 〔仕事始め〕
不味公図書資料展(1月中展示)。
- 9日 文化映画を見る会、ステレオコンサート。
〔集会室〕
- 12日 図書選定委員会(会議室)
- 14日 図書館友の会役員会。
- 16日 古文書を読む会(集会室、会議室)
- 18日 本に親しむ婦人教室(集会室)
- 28日 46年度当初予算内示(財政課)
〔1月中閲覧者総数 9,850名〕
郷土に関する最新出版資料展(2月中展示)
- 2月9日 監査委員会監査。
45年度2月補正予算内示。
- 10日 図書選定委員会(会議室)
- 13日 文化映画を見る会・ステレオコンサート
〔集会室〕
- 15日 本に親しむ婦人教室(集会室)
- 16日 東京都立日比谷図書館職員2名来館視察。
高視研映画選定試写会(集会室)
- 18日 BM(八東・平田コース)
大分県立大分図書館職員2名来館視察。
- 19日 BM(簸川コース)
- 20日 古文書を読む会(集会室、会議室)
- 22日 映画選定試写会(集会室)
〔2月中閲覧者総数 9,612名〕

図書館ニュース

読書普及映画図書館で制作さる!

3月8日から11日の間、図書館では、遊摩郡温泉津町「元井田読書会」と浜田市「母の会読書グループ」の協力を受けて、本を読む主婦たち「虹」の撮影が行なわれました。

元井田読書会がどのようなきっかけで作られたかその過程と母の会読書グループがどのようにして読書会活動をしているかを映画化したものです。

この映画は、忙しい生活に追われている主婦たちが、忙しい生活の明け暮れの中で読書会活動の歩みを続けている様子を8ミリフィルムに記録したものです。

これから読書グループを作ろうと考えておられる方にとって良き指針となります。

また、「忙しくて読書は…」といっている人達にとっても良き刺激となるでしょう。

このフィルムは4月に完成する予定です。今後このフィルムを利用して読書普及を進める計画をしております。

郷土新聞のマイクロ化進む

図書に比べて集約度が高く、長く保存できるという長所を持つマイクロフィルムが、近年盛んにもてはやされるようになりました。

当館においても撮影機を設備し、十分利用価値のあると思われる貴重な資料について、マイクロ化の作業を行ないつつあります。現在は第1回の作業として郷土新聞の古いものから複写をしています。今のところ、利用者に一般公開していませんが、将来はリーダーにかけて読んだり、コピーしたりが出来るようにする予定です。

マイクロ化済みのものは次のとおりです。(但し、欠号分は複写を行なっていません)

山陰新聞 明治33年5月～昭和16年12月

島根新聞 昭和17年1月～昭和20年11月

松陽新聞 昭和2年9月～昭和7年9月

告知板

3月の「古文書を読む会」の行事予定

古文書に親しみ、古文書を1人でも多く解説できるようにこの会が始められてすでに20数回の講座が、毎回好評、盛況のうちに続けられています。今年度最後の定例会には、つぎのような行事を予定しています。

記

- 開催期日 3月20日(土) 13.00～16.30
- 行事予定

○講義

○精勤証の授与

昭和45年度において熱心に受講された出席率50%以上の出席者に授与し、今後一層の精進を期待する。

○意見交換会

いままでの会のあり方を再検討しますます充実させるため会員のきいたんのない意見をきく会

☆日本図書館協会への入会のおすすめ

日本の図書館を発展させ図書館員の待遇を改善し、専門職としての資質と地位の確立を図るための全国組織が、日本図書館協会です。

この日本図書館協会を支えて、さまざまな図書館、おおぜいの図書館員、図書館に関心をもつ人々が、協会の会員となっています。

ご入会希望の方は、会費年額 2,000円と住所、氏名をお届けください。

申込先 松江市内中原町52 県立図書館振興課普及係まで

入会されますと、

- ① 日本図書館協会の正会員として登録され機関誌「図書館雑誌」が毎月送付されます。
- ② 正会員は協会主催の講習会、研究会などに安い会費で参加できます。
- ③ その他特典があります。

くわしくは、島根県立図書館振興課普及係までお知らせ下さい。

昭和46年度 県立図書館行事予定

月	旬	項目	行事・事業名	場所	内容・対象	展示コーナー
4	上		春季ばく書(10日間)	当館	図書の点検整理・消毒	全国都道府県 広報展
	中		郷土文学に親しむ会	〃	一般	
	下		モデル文庫・自動車文庫利用研究協議会	〃	モデル・自動車文庫各取扱主任者	
5	上		自動車文庫巡回(第1回)	関係市町村	読書会等	少年倶楽部 復刻展
			こども大会(こども読書週間)	当館	小中学生	
	中		郷土文学に親しむ会	〃	一般	
			映写機登録検査	関係市町村	県内11か所	
	下		図書館協議会(1)	当館	協議会委員	
		県図書館協会通常会	〃	県公図・学校・大学・工専図書館		
		県公共図書館協議会総会並びに研究会	浜田市	県公共図書館		

新着資料の紹介

1. 図書資料

総記

子どもの本の世界 ヒューリマン
 日々を新たに 松下幸之助・藤島泰輔
 家庭の読書指導 滑川道夫
 アメリカの日本研究 宮本又次
 新著作権問答 佐野文一郎

哲学

生きがいの周辺 加藤秀俊
 祭祀遺蹟 大場磐雄
 神仏分離史料全5巻 辻善之助等編

歴史

砂丘の幻想 文・井上靖 写真・田賀久治
 疾走する青春 津本忠雄
 江戸幕府の代官 村上直
 ああ満州 浜野健三郎
 日本私年号の研究 久保常晴
 アメリカの歴史全3巻 サムエル・モリソン

社会科学

大塚久雄著作集全10巻 大塚久雄
 裁かれる日本裁判 日野健
 余暇生活の研究 氏原正治郎
 アメリカ対日労働政策の研究 竹内栄治

自然科学

情報化時代の疲労対策 田多井吉之助
 食品公害への挑戦 岩田友和
 スズキ星座図譜 鈴木敬信
 病める医療への提言 波奈土昇

工学

大気汚染測定法の実際 寺部本次
 日米繊維交渉 稲葉秀三
 模型機関車 G・R・ウィリアムズ

2. 視聴覚資料（新着録音教材）

学校教育社会教育団体等で利用希望の向きはテープを持参くだされば複製サービスをいたします。

家庭教育シリーズ第11集

（こどもの精神衛生）の一部各15分間

1. こどもの精神衛生を考える
健全な心を持つこどもを育てるための基本的な配慮、特に幼児期と思春期のたいせつさ、両親の心の生活が醸し出す雰囲気、家庭への信頼、帰属感などについて考える。
2. 4～5歳児の世界—精神的見地から—
この時期では、「遊ぶこと」ということがなによりたいせつな生活である。その前後の時期における親の話しかけ方やこどもの活発な心身活動の扱い方などを考える。
3. 小学生の世界—精神的見地から—

イベット・ジローの家庭料理

イベット・ジロー

産業

底流からの証言—日本を考える— 佐藤藤三郎
 正・続明治商売往来 仲田定之助
 石燈籠新入間 京田良志

芸術

仏教美術の基本 石田茂作
 本因坊戦全集全6巻 毎日新聞社編刊
 日本流行歌史 古茂田信男

語学

中国語3巻（発音編・入門編・会話編） 長谷川寛
 フランス名文選 鈴木力衛編

文学

解放された世界 石川達三
 杵子妻隠 古井由吉
 西脇順三郎全集全10巻 西脇順三郎
 漱石の書簡 古川久

レファレンス室

公害白書 昭和45年版 総理府編
 全国短大・高专職員録 46年版 大学職員録行会編
 日本労働年鑑 1971年版 大原社会問題研究所編

郷土資料室

島根県人名事典 伊藤菊之助
 石見諸家系図録 岡本正司
 山陰—歴史と風土— 下村章雄

小中学生室

木かげの家の小人たち いぬいとみこ
 海の馬タツノオトシゴ 松岡洋子
 ヘンリー君と秘密クラブ ベバリークリアリイ 松岡享子訳
 ギリシャ神話 山室静
 「坊っちゃん」と夏目漱石 長谷川泉

小学校に入ると、こどもは社会生活というものささまざまな面と現象に直面し、適応性が問題となる。その時期の生活行動や精神衛生についての配慮や方向づけを考える。

4. 青年の世界—精神的見地から—
高校時代の家出や登校拒否、その他不純異性交遊などは、どういう心の状態からおこるかを探り、青年の理想主義や自律生活への志向をどのように扱ったらよいか、考えてみる。
5. よい習慣と困ったくせ
困ったくせの代表である指しゃぶり、夜尿、どもりなどの事例と原因を探り、それらが「心配なくせ」かどうかの判断やなおし方としての親の側の態度の改善について考える。